

年次報告書
(ホームページ掲載版)

2021 年度活動報告
2022 年度活動計画



2022 年 4 月

特定非営利活動法人
サヘルの森

〈目次〉

【会員の皆様へ】 今年も実践者を支援します……………	1
2021 年度現地活動報告……………	2
2022 年度現地活動計画（2022 年 1 月～12 月）……………	8
国内活動－2021 年度活動報告・2022 年度活動計画……………	10
監査報告書……………	15
運営委員・監事名簿（2022 年度）……………	16

〈表紙の写真〉

小さな菜園に育った実践者のユーカリとカイセドラ

〈裏表紙の写真〉

配布苗を手にする女性

個別指導の良さを生かす

マリを含むサヘル地域では、近い距離であっても、生活環境はもとより気象や土壌条件が地域ごとに極端に異なっています。生活様式の違う人々が隣接して暮らし、雨も明瞭な境界線を作って降ります。野火の多い場所、雨期にだけ流れる枯れ川、わずかな傾斜の違いが生んだ植生の差など。こうした現地特有の事情が、ファナ地域での「実践者」支援活動につながっているのです。

マニュアルを作り一様な支援を行えば、作業効率も上がるでしょう。植林本数も増加するはずですが、しかし、あえて個人的な関係に踏み込んで、小さく個別に対応していくことに意味があると考えています。何しろ、現地がそうなのですから仕方ありません。画一的なワークショップを開くよりも、家庭教師のように個別に関わっていく方がしっくりくる、という考え方に立っています。今年度も、本人の気質や家庭状況にまで踏み込んで、新しい「実践者」の育成を行っていく計画です。

35 年も経てば気象も変わる

サヘルの森は、今年で発足から 35 年目を迎えます。この間、世界情勢は大きく変化しましたが、気象も地球規模で変化しました。日本でも数十年に一度と形容される激しい気象変化に遭遇する機会が高くなりました。こうした変化は気象庁の観測値からも見て取れます。東京の年降水量を 10 年単位で比較すると、直近 10 年（2012 年～21 年）の平均は 1694 ミリ、対して 1982 年から 91 年の平均は 1486 ミリ、40 年間で約 1500 ミリから約 1700 ミリに増加しています。これまで報告会等で「東京の年降水量は約 1500 ミリ、一方マリは・・・」と話していたのを訂正しなければなりません。参考までにマリの首都バマコの数値を見ると、顕著な増加傾向は認められず、約 600～700 ミリの間で増減していました。

ここ数年、「ゲリラ豪雨」「線状降水帯」という言葉を聞くようになりました。日本もサヘル地域と同じように降水量の地域格差が激しくなったことは間違いありません。突然の大雨にサヘル地域を身近に感じるとは、皮肉なことです。

代表 高津佳史

【参考】40 年前との降水量の比較（年平均値による比較）

直近 10 年（2012～2021 年）の平均： 1694.5 ミリ（東京）、633.0 ミリ（バマコ）

3～40 年前（1982～1991 年）の平均： 1486.7 ミリ（東京）、605.5 ミリ（バマコ）

2021 年度現地活動報告

2021 年は、新型コロナウイルスの変異株の出現により、世界的な感染拡大の波が押し寄せました。マリでは、新型コロナウイルスのワクチンを公平に分配しようという世界的枠組み「COVAX ファシリティ」により、5 月からワクチン接種が始まりましたが、2022 年 2 月 24 日現在、3.9%の接種率にとどまっています。とはいえ、マリ国内の感染者累計は 30,358 人、死者累計 722 人（2 月 24 日現在）にとどまり、欧米諸国に比べれば状況は落ち着いていると言えます。

2020 年 8 月のクーデタの後、昨年 5 月にも 2 度目のクーデタを経験し、暫定政府は、約束していた 2022 年 2 月には民政移管はできないと期限延長を求め、西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）が速やかな民政移管を要求し経済制裁を行うなど、依然として政治的な混乱が続いています。マリ国内情勢はまだまだ先行きが見通せませんが、今後も感染状況や治安状況を把握したうえで、比較的安全なマリ南部での活動を進めていきます。

2021 年度のマリでの現地活動は、マリ南部の 3 地域（ファナ、バマコ北部、バマコ南部）において行いました。日本人の派遣は計 2 回（8～10 月、1～2 月）を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大のため実施せず、マリ人スタッフを現場に派遣して活動を進めました。雨期（5～9 月）前より植樹の準備（育苗、柵設置、植穴掘り）を行い、雨期を中心に苗木配布や学校林の育成、里山再生の実践などを行いました。乾期（1～5 月、10～12 月）には試験地への石組設置・在来樹の混植・直播、配布苗の生育状況の確認、学校林の保護柵補修、里山再生実践の準備（種子採取・育苗）などを行いました。

計画では、「里山再生の技術研修を受けた村人や地域苗畑主が実施する里山再生活動に協力するとともに、緑を育成する村人のすそ野を広げる」ことを目標とし、以下のような活動内容で進めていこうとしていました。

- ・技術研修を受けた村人の里山再生の実践に協力する
- ・苗木配布で村人の緑育成の波及と人材の発掘を継続する
- ・学校林の育成に協力する
- ・里山再生の試験と技術開発を実施する
- ・日本人の派遣

以下、項目別に活動を報告します。

①技術研修を受けた村人の里山再生の実践に協力する

（1）過年度実践者の里山再生

2015 年から 2018 年までの毎年、ファナ地域の数名が研修を受け、その自身の土地で里山再生を行っている実践者が 20 名ほどいます。育苗し、植え育て、使うまでを自身で行う実践者は、過去植えた木も大きく育ち、立派な林となっている実践者の里山もあります。

この数年、マリ人スタッフの勧めで、雨期直前の乾期植栽（4～5 月）を行い、順調に育つ苗木の姿がスタッフにより写真に収められています。雨期の前に、暑く乾燥した地面に穴を掘るのは大変な作業ですが、雨期に入ってからからの生長の速度は目を見張るほどです。苗木を作ったことのなかった彼らが、自身で苗木を育て、植え、大きく林を育てるまでになっていることに、改めて感心しています。

写真 過年度実践者が育てた樹木たち



1-01



1-02



1-03



1-04



1-05



1-06



1-07



1-08

1-01：乾期植樹のユーカリ《グントゥ村・ニャネ》

1-02：実のなったズイズイ改良種《カマ村・バーバ》

1-03：飼料となる在来種トロ《ジェバ村・マトゥ》

1-04：ユーカリ・在来種同時育成《カマ村・バル》

1-05：畑のアカシア・セネガル《ウェラ村・マリ》

1-06：在来種カイセドラの林《ジェバ村・ユース》

1-07：育った樹を剪定《ウェラ村・マトゥ》

1-08：畑の境界のユーカリ《ラジブグー村・フェニ》

(2) 新実践者の里山再生

里山再生の実践者を育ててきましたが、そのほかにも植林に興味を示す村人はたくさんいます。こうした村人を拾い上げ、多くの村に実践者が増え、他の村人たちに影響を与えられるように、2021 年度は新実践者を選抜しました。新実践者は、過年度実践者の近くの村で、植林に興味を示す村人を対象として、実践者と同じように、育苗から、植え育て、そして使用するまでを自身で行います。初年度は、まだ育苗が始められていないため、会が用意した苗木を、乾期前に植えることから始めました。その際には、過年度の先輩実践者も同行してもらい、共に作業しながら、自身の活動の中で培ってきた経験や技術を新実践者と共有してもらいます。隣村という関係性から、里山再生を目指す良き仲間として共に刺激し合ってもらいたいと考えています。

2021 年度は、7 カ村 11 人の候補者が見つかりましたが、この間の意欲などから、5 カ村 5 名を新実践者として選び、12 月に個々の里山に苗畑を設置しました。翌年の 2 月頃から育苗を始め、雨期前（4～5 月）の植栽を目指します。



雨期前にユーカリを植樹



翌年の育苗のため、苗畑を設置

(3) 実践者同士の交流（里山再生の人的ネットワークの構築）

実践者がそれぞれ取り組む里山再生は、その環境も内容も始めた時期も違います。先行している実践者のもとを訪れ、育った木々を見て、自分が取り組むべき里山の将来像をイメージすることができます。また、より確かな技術を持った地域苗畑主のもとを訪れ、経験や技術を学びます。

2021 年度は、10～11 月に新実践者を含め、実践者間の交流が 4 回、苗畑主と実践者の交流を 1 回行いました。訪れた実践者たちは、盛んに質問をして技術交流を行い、何か行き詰った時に相談できる緩やかな関係づくりができていていると感じています。



過年度実践者の里山を訪れ、交流

②苗木配布で村人の緑育成の波及と人材の発掘を継続する

2021年度は、雨期（6～8月）に、新実践者や学校林を育成している村を中心に、マリ人スタッフが苗木配布を行いました。苗木の配布本数は、3地域合計30ヵ所11,630本となりました（7ページ、表2参照）。

新実践者の村など、ここ数年で苗木配布していない村に苗木配布ができました。

配布苗は、半数以上をそれぞれの地域苗畑からの苗木を、4割以上を実践者が育成して残った苗木を買い取って使用しています。

表1 購入先苗畑

地域	苗畑名
バマコ北部（1ヵ所）	カマカ
バマコ南部（3ヵ所）	バマコ1、バマコ2、サナンコロバ
ファナ（8ヵ所）	ファナ2、ファナ3、ウォロド2、タンバブグー、フガニ（以上、地域苗畑）、カソマブグー1、カソマブグー3、グンドゥ1（以上、実践者苗畑）



実践者からも苗木を購入

③学校林の育成に協力する

2021年度は、新規学校への学校林育成は行わず、これまで育成してきた3地域11校の維持と管理を行うに留めました。熱心な校長や教師、あるいは保護者がいる学校では、スタッフが様子を見に訪れると、一緒に作業を行ってくれたり、順番を決めて子供たちが代わる代わる水やりなどの世話をしたりしますが、そうでないところは植えたまま、家畜の食害に遭っていたりします。

機関紙でもご報告した通り、ラミニブグーではユーカリの列植が大きく育ちましたが、村長からの要望で、囲っていた金網を北に移動し、新たな列植を学校管理員会の保護者達と行いました。



育ったユーカリの列植を延長する

④里山再生の試験と技術開発を実施する

以前の試験地が使えなくなり、カソマブグー村での植生回復試験は、10月で3年目に入りました。カソマブグーの試験地は、過去に耕作を行った後に放棄された土地で、草も生えず雨水が浸透せず流れてしまいます。この裸地に、平地（試験地A）には草木の束を、傾斜地（試験地B）には石組みを施して、草本を誘致して、植生を回復させました。

2021年は2～4月の乾期には試験地Bの石組を補強して、在来樹3種の寄せ植えを行いました。試験地Bは傾斜していて、雨期の雨により雨裂ができ始めていましたが、石組みを補強して、雨裂発生の抑制と草本の定着ができました。また、在来樹3種の寄せ植えも大きく育っています。



石組みを補強する



育った在来樹 3 種の寄せ植え

(2) 有用樹の育成

薪炭材として最適ともいわれるチャンガラ (*Combretum spp.*)、油脂を採取できるカリテ (シアバターノキ、*Butyrospermum parkii.*) など、都市への薪炭供給のために疲弊する在来種を自然と同じように育成しようと、直播などの試験を行っています。

2021 年は、2 月に石組みを補強した際に、石組みの上手にチャンガラの子を播種しました。雨期には発芽を確認しましたが、石組みによって雨水が留められ、その後の乾期に枯死せずに耐え忍んでくれることを期待しています。



チャンガラの実生

⑤日本人の派遣

2021 年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、予定していた 8～10 月、2022 年 1～2 月の 2 回の日本人派遣はできませんでした。

表2 2021年の活動地域と活動内容一覧

活動地域	主な活動地（町村・学校等）	活動内容	配布本数 主な配布樹種
バマコ（首都）	バマコ事務所	苗畑：有用樹苗育成	在来種多数
クリコロ州 バマコ北部 配布：6カ所 苗畑：1カ所	ンゴロンゴジ、テネンザナ、ドゥラコ ニアマナ小学校、コジャン小学校（計 2校）	苗木配布 学校林育成	2, 400本 ユーカリ、バオバ ブ、カシューナット ノキ、エタージュ、 チーク
クリコロ州 バマコ南部 配布：4カ所 苗畑：3カ所	バンドゥグ、ファラダン、タジャナ セベラコロ小学校、マサコ小学校（計 2校）	苗木配布 学校林育成	1, 620本 ユーカリ、バオバ ブ、カシューナット ノキ、スンスン、カ イセドラ
クリコロ州 ファナ 配布：20カ所 苗畑：8カ所	マドゥジャラブグー、ニアニナ カソマブグー、ニヤマトブグー、タンバブグ ー、ジェバ、ウェラクラ、グェンドウ、ラジ ブグー、マナコロ、チチュア カソマブグー、ウルフィエナ、ジリマ スギ、アルファブグー、バフレブグー ラミニブグー小学校、タンバブグー小 学校、コラボ小学校、ボディゲンドウ 小学校、ンガバコロ小学校、ウェレケ ラ小学校（計6校） カソマブグー	苗木配布 里山再生実践 新実践者 学校林育成 荒廃地植林試験	7, 610本 ユーカリ、バオバ ブ、カシューナット ノキ、アルヘンナ、 カイセドラ
合計			11, 630本

2022 年度現地活動計画（2022 年 1 月～12 月）

コロナ禍の収束を願い、アフリカの里山の再生を目指して、主体となる実践者と共に、マリ人スタッフの協力を得て、現地活動を継続していきます。里山再生は、単に森林資源を増やすことにとどまらず、貧困や飢餓を軽減し、地下水を涵養し、劣化した土地を回復させ、土壌を保全します。また、学校林では学校委員会など市民社会とのパートナーシップを押し進めています。実践者としての女性の参加は、社会の理解を得られず実現していませんが、方策を考えて進めていきたいと思っています。

今年度は、里山再生を行う実践者の交流を図りながら、里山再生の人的ネットワークを新たな実践者へと活動を広げ、地域をけん引する人材を育てていくことに力を注いでいきます。また、バマコ周辺の 3 地域で活動が続けてきましたが、バマコ北部、バマコ南部はともに日帰りで活動するため、運転手兼スタッフであるトラオレさんの負担が大きく、宿泊ベースで取り組めるファナ地域の方に活動を移行していきます。

①里山再生の新実践者への拡大



新実践者を先達の実践者と育てる

里山再生の実践は、生活に有用な樹木の苗木を自ら育て、植え育て、利用することを実践していくことです。全ての村人が苗木作りを始める必要はないと考えていますが、地域にそのような実践者が多くいれば、周りの村人もそれを手本に実現可能と感じられるようになり、自分もやってみようかという広がり期待できます。興味のある村人を新実践者として迎え、サポートしながら、地域の牽引者として育てていきます。新実践者の発掘には、苗木配布などをうまくつかっていきます。

②先達の実践者から新実践者への技術・経験の伝達

これまで、会の活動の中で里山再生を行う実践者を育ててきました。彼らはこれから始めようとする新実践者よりも先んじて里山再生に携わってきました。こうした実践者に同行してもらい、新実践者と共に木を植え育てながらその技術や経験を伝えてもらいます。また、先達の実践者や今の実践者が学んだ地域苗畑主のもとを訪れ、彼らの育てた里山をみて、自分が行う里山再生のイメージをつかみ、技術や知識の交換を行います。そして、緩やかではあるが、里山再生を共に行っていく地域の人的ネットワークが築いていければと考えています。



地域苗畑主や実践者同士の交流

③学校林の育成



教師や保護者と協働して学校林を育成

ファナ地域の学校の多くは、国の政策もあり、村で学校管理委員会を組織して、学校の運営に関わる活動を保護者が行っています。学校林の育成もその活動の一つであり、これまで会が行ってきた学校林の育成でも多くがこの委員会との協働で行っています。今年度は、こうした委員会との協働で、まとまった本数の学校林の育成を何校かで行います。必要があれば、金網などの資材の供与を行い、家畜からの食害に対処していきます。

④里山再生の技術開発を行う（試験地）

荒廃した里山の植生回復させるために、これまで石組みや草木本束を用いた土砂流出防止や有機物の捕捉などを行ってきました。こうした試みは草本の定着などを呼び込み一定の効果も見られましたが、家畜の食害を防止するために柵で囲ってしまうなど、他の要素も加わり効果が現れた可能性もあります。そのため、柵のないオープンな裸地での植生開発試験を行います。併せて、育成できていない在来種（チャンガラなど）の直播なども継続して行っていきます。



草木本束を施して、草本の定着を促す

果樹の育成には、剪定など改善の余地があると思われるので、実践者の農園での試験育成も合わせて行います。

⑤日本人の派遣

ワクチン接種も3回目のブースター接種が始まり、コロナ禍も次第に収まることが予想されます。2年ほど日本人派遣ができていない状況にありますが、今年度は、5月～来年2月の間に状況が落ち着いた時点で2ヵ月×1人の日本人を派遣します。

日本人が派遣できない場合は、マリ人スタッフを現地に派遣して、活動を継続していきます。

表3 2022年度のスタッフ派遣予定

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
スタッフ A													

*破線の期間のうち2か月間

国内活動－2021 年度活動報告・2022 年度活動計画

ミーティング・総会

<会員総会>

2021 年度の通常総会を書面表決・オンラインで開催（3/21）

<運営委員会>

JCA・NET のウェブ会議サービスを利用して計 7 回開催

開催日：1/10（第 180 回）、2/14（第 181 回）、5/22（第 182 回）、7/31（第 183 回）、8/28（第 184 回）、10/3（第 185 回）、12/4（第 186 回）

事務局体制

これまで、事務局業務を委託してきた会社の廃業に伴い、委託業務を整理して個人へ委託することになりました。今までの業務の一部は運営メンバーに振り分けて進めることになります。いろいろとご不便をおかけすることもあるかと思いますが、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

日本人スタッフ・ボランティアの派遣状況

<2021 年度 派遣実施>

新型コロナウイルス感染拡大のため、日本人スタッフの派遣中止

<2022 年度 派遣予定>

スタッフ A （5 月～10 月の間の 2 ヶ月）

（9 ページ表 3 「2022 年度のスタッフ派遣予定」参照）

＊マリ派遣に問題ないと判断された場合のみ派遣。

広報

<機関誌「サヘル」他>

第 108 号（6/30 発行）／ ファナ特集号（10/29 発行）／ 第 109 号（12/23 発行）

学校との関係

<お話の出前・資料貸し出し他>

・横浜市立浦島丘中学校「廃品回収収益金委託式」（榎本）（4/13）

イベント

<2021 年 参加イベント>

2020 年度のイベントは軒並み中止となりましたが、今年度は、実際の会場で行うものは少なかったものの、オンラインで開催するイベントも多く、いくつかのイベントに参加することができました。

・みどりとふれあうフェスティバル(Web 出展、フォトコンテスト商品提供) (4/15～5/14)

- ・グローバルフェスタ JAPAN2021（会場（千代田区）、オンライン参加）（10/9,10）
- ・ジャパン・バードフェスティバル 2021（Web 参加：千葉支部）（11/6,7）

2022 年は、どのイベントがどのように開催されるかに不明ですが、状況が許す限り参加をしていきたいと思っています。また、会員の皆さんと交流できるような自主イベントの企画も考えていきたいと思っています。皆さんのご協力も必要となりますので、よろしくお願いします。

機関誌サヘル

機関誌サヘル 108 号、109 号とファナ特集号を発行しました。コロナ禍で会員の皆さんとの交流が少なくなっていますので、活動紹介の貴重な機会となりました。

◆サヘル 108 号 2021 年 6 月 30 日発行

- ・どこまでも柔軟に 代表就任のご挨拶 高津佳史
- ・これまでとこれから 退任のごあいさつ 坂場光雄
- ・実践者と里山再生 現地活動報告 2021 榎本肇
- ・おもしろ在来種 第 4 弾 チューインガムの木 坂場光雄
- ・書評「サハラ砂漠塩の道をゆく」 原梓
- ・国内活動報告：2021 年会員総会、牛乳パック回収活動（浦島丘中学校、小岩第一中学校）

◆ファナ特集号 2021 年 10 月 29 日発行

- ・ファナ地域の里山再生 榎本肇
- ＜実践者と地域苗畑＞＜住民の需要に応える里山再生＞＜新試験地での取り組み＞他

◆サヘル 109 号 2021 年 12 月 23 日発行

- ・新実践者と共に歩む 榎本肇
- ・日本人スタッフの派遣を見送りました
- ・バマコからファナへ 坂場さん、ファナってどんな町 坂場光雄
- ・八戸にニホンジカが来た 工藤義治
- ・国内活動報告：グローバルフェスタ（戸本喜文）、サヘルキャンプ（坂場光雄）

2022 年も機関誌 2 回、特集号 1 回の年 3 回の発行を目指します。現地レポートと国内活動報告のバランスを保った編集を心がけていきます。

牛乳パック回収

古くから当会と繋がりがある浦島丘中学校（4 月 13 日）と小岩第一中学校（6 月 17 日）の 2 校で牛乳パックの回収を行いました。

浦島丘中学校（神奈川県横浜市）では、全校テレビ放送を使って資源回収委託式が行われました。同校との関係は今年で 32 年目となり、生徒の皆さんが集めた牛乳パックとアルミ缶の回収金 8,160 円が当会の活動資金として委託されました。小岩第一中学校（東京都江戸川区）では、生徒会が中心となって集めた大量の牛乳パックを部活終了後に車に積み込んでもらいました。計 2,310 円（パック 150 キロ相当）をご寄付いただきました。

2022 年も活動にご協力いただける学校や団体があれば、回収に伺います。しかし、コロ

ナ禍の物流停滞が、給食や古紙など様々なところに及んでおり、先行き不透明です。東京では学校給食の牛乳がビンから紙パックに変更になり話題になりました。本来ならリサイクルに回るところですが乳業メーカーで回収できず廃棄されているのが現状です。

ホームページ・ブログ・Facebook・Club SAHEL

事務局体制の変更に伴って、これまで業務委託先で担っていたホームページ、ブログ、Facebook の更新作業をメンバーで分担して行うようになりました。2021 年度は、ホームページは事務局担当の榎本、ブログは代表の高津、Facebook は会員の原が担当しました。

2022 年も更新頻度は月 1～2 回程度になりそうですが、可能な限り情報発信していきたいと思います。会員の方からのご意見で、スタッフブログにマリ料理のレシピを掲載したことがありました。皆様からのご意見やご要望など、お寄せいただければ幸いです。

サヘル定例活動とサヘルキャンプ

<2021 年のサヘル定例活動報告>

定例活動の目的は、国内での会員交流、技術研修、人材育成などです。自分の目で現場を見て歩き、感じたり、考えたりすることを大切にしています。現在の自然や町並みを楽しみ、歴史・文化の積み重ねなどを学んでいます。

2021 年 1 月はコロナ禍の中、緊急事態宣言の発令で始まりしました。ひと月の我慢と思っていましたが、感染者は長期にわたって増減を繰り返し、外に出かける活動は中止となりました。夏にワクチン接種を行いましたが、夏の休暇の後、また感染者が増加しました。

11 月はサヘルキャンプを予定していましたが、人が集まっの飲食活動は感染防止の点から止めて、定例活動のように現場を見るという事で開催しました。京王線多摩境駅から鶴見川源流を歩きました。12 月は東横線祐天寺駅から祐天寺、目黒川沿いを歩きました。博物館や美術館などの施設はパスしました。

思うような活動が出来ない 1 年でした。スタッフのいろいろな地域での活動の一部をスタッフブログで画像付きで紹介しております。「サヘルの森スタッフブログ」で検索してご覧ください。

2021 年度 サヘル定例の場所

11/20 鶴見川源流、12/18 祐天寺と目黒川

<2021 年のサヘルキャンプ>

新型コロナウイルスの拡大で中止としましたが、定例活動に振り替えました。

<2022 年のサヘル定例活動>

定例活動は、国内での会員交流、技術研修、人材育成などを目的として行っています。コロナ禍の状況にも依りますが、密を避け、緑を中心とした地域への訪問で、現場を見ながら学んでいきたいと思います。昨年度出かけられなかった場所を中心に計画します。

期日は毎月第 3 土曜日中心に開催しますが、変更になることもありますので、確認してご参加ください。参加費はありませんが、別途施設の入場料金などがかかることがあります。楽に歩けるような身支度、飲用水、昼食持参をして、ご参加ください。

2022 年度定例活動計画

期日	場所	集合場所	備考
2022 年 1/15(土)	荏原七福神 【中止】	JR 京浜東北線「大井町」 駅中央改札口 10:30	品川区南部の荏原あたりを歩きます。
2/19(土)	和田堀公園と善福寺 緑地 【中止】	京王井の頭線「西永福」 駅改札 10:30	武蔵野台地を蛇行して流れる善福寺川 を歩きます。
3/19(土)	片倉城跡公園と小比 企丘陵	京王線「京王片倉」駅改 札 10:30	八王子南部の城跡と丘陵地を歩きます。
4/16(土)	滝山城跡と少林寺	JR 中央線「八王子」駅 改札 10:30	新緑の滝山丘陵を歩きます。
5/21(土)	亀井戸水神、大正民家 園と荒川堤防	JR 総武線「亀戸」駅北 口改札 10:30	江戸川・墨田区の旧中川、荒川と水に関 する神社巡り
6/18(土)	庭園美術館、港区郷土 歴史館	JR 山手線「目黒」駅 中央改札 10:30	昭和初期の建物と庭園などを巡ります。
7/16(土)	日野ふるさと歴史館 と黒川清流公園	JR 中央線「日野」駅改 札 10:30	日野の歴史を学び、黒川段丘崖線の緑地 を歩きます。
9/17(土)	平林寺と歴史民俗資 料館	JR 武蔵野線「新座」駅 改札 10:30	武蔵野の平林寺と地域の歴史民俗を学 びます。
10/15(土)	区立美術の森と中村 かしわ公園	西武池袋線「中村橋」駅 改札 10:30	美術館の庭にあるモニュメントと防災 公園を歩きます。
11/19(土)	サヘルスタディーツア ー「仙洞寺山」	JR 横浜線「橋本」駅改 札 9:30 (京王相模原線 橋本駅から 100m)	森づくりの現場を訪ね、方法、考え方、 アイデアを収集
12/17(土)	調布から三鷹の仙川 をさかのぼる	京王線「仙川」駅改札 10:30	武蔵野台地を流下する仙川の源流を探 ります
2023 年 1/21(土)	雑司ヶ谷七福神	JR 山手線「目白」駅改 札 10:30	池袋の南東にある雑司ヶ谷を巡ります。
2/18(土)	辰巳の森海浜公園と 洲崎神社	東京メトロ有楽町線「辰 巳」駅改札 10:30	東京湾の埋立地の緑地と江戸時代から の神社を巡ります。
3/16(土)	野沢稲荷と世田谷公 園	東急田園都市線「駒沢大 学」駅改札 10:30	世田谷の野沢、下馬、池尻 あたりを歩きます

＜2022 年度のサヘルスタディーツアー＞

現場を訪ね、方法、考え方、技術、アイデアなどを学び、諸活動に応用していきたいと
思います。会員交流、自然観察等も併せて実施します。海外協力やボランティア、緑づく
りの活動に関心のある人との交流などにも取り組みます。

20 年余に渡り、森づくりが行われている仙洞寺山の「さがみの森」を訪問します。

期日：2022 年 11 月 19 日（土） 場所：神奈川県仙洞寺山麓
集合：JR 横浜線「橋本」駅改札 9：30（京王相模原線「橋本」駅から 100m）
持ち物：山歩きの身支度、帽子、飲用水、昼食、タオルなど
費用：バス代（1,000 円程度）

＊定例活動、サヘルキャンプへ参加希望の方は、変更になることもありますので、事前にサヘルの森までご連絡ください。定例活動の緊急連絡は電話でお願いします。
TEL:042-721-1601 メール：sahel-no-mori@jca.apc.org 緊急連絡先:090-5754-2813(当日)

奈良支部（島岡てるみ）

2021 年度はコロナ禍で、対面での集まりはできませんでしたが、奈良市内の友人知人から、苗木募金をいただきました。色々な機会を見つけて、サヘルの森の活動を紹介して、退職した教師の皆様とも親しくなることが出来ました。

2022 年度は機会ができれば、力強さを感じられるアフリカの泥染め布などのグッズを見ながら、アフリカ・マリへの想いを色々な方と共有したいと思います。このコロナ禍ですが、元気を出して過ごしていきたいと思っています。

静岡支部（戸本喜文）

最近自分の仕事の中心が東京方面となった事や新型コロナ蔓延等の社会情勢の影響もあり静岡県内でのイベントは最近実施していません。新型コロナ終息後にまた活動報告会等を企画してみたいと思います。

昨年静岡支部として昨年参加したイベントは2年ぶりに開催された「グローバルフェスタ JAPAN 2021」です。今回は感染症対策としてリアル（対面）とオンラインのハイブリッド形式での開催となり、リアル会場は東京国際フォーラムで行われました。

興味をもって来訪された方々に現地の活動やバオブブ関係の説明をコロナ禍以前と同様に行いました。記念品として配布したバオブブの種も好評で、最終日はイベント終了時間前に配布終了となりました。感染症対策でマスク着用やアルコール消毒の徹底等はなかなか大変でしたが、早く新型コロナが終息し以前と同じような活動ができると良いなと思いました。

千葉支部（高津佳史）

毎年参加している「ジャパン・バードフェスティバル 2021」は、昨年に続いてリモート開催となってしまいました。そのため、ウェブ上でのホームページ紹介だけとなりました。

監査報告書

監査の結果、特定非営利活動法人サヘルの森

2021 年度収支報告書(2021 年 1 月 1 日～2021 年 12 月 31 日)

及び貸借対照表(2021 年 1 月 1 日～2021 年 12 月 31 日)は、一般に

公正妥当と認められる会計原則に基づいて、作成されている事を認める。

2022 年 2 月 6 日

特定非営利活動法人サヘルの森

監事 宮代 裕子 

監事 赤塚 秀子 

運営委員・監事名簿（2022 年度）

代 表	高津 佳史	自営
運営委員	上田 隆	団体職員
	榎本 肇	自営（事務局長）
	工藤 義治	団体職員
	久保 隆一郎	会社役員（神奈川支部）
	高津 佳史	自営（千葉支部）
	坂場 光雄	自営
	島岡 てるみ	主婦（関西支部）
	戸本 喜文	会社員（静岡支部）
監 事	赤塚 秀子	主婦
	宮代 裕子	自営



2-01



2-02



2-03



2-04



2-05



2-06



2-07



2-08

2-01：乾物屋。燻製ナマズや乾燥タマネギが並ぶ

2-02：都市近郊農業・トマトの出荷

2-03：村々を回り、服の直しをする仕立て屋

2-04：小麦粒のお粥屋。すぐに人だかりができる

2-05：古くなったプラ製の穀物袋で縄をなう

2-06：割礼式の後の子供たち

2-07：散髪。切らずに剃る

2-08：結婚式。花嫁とその家族



特定非営利活動法人 サヘルの森

〒194-0013 東京都町田市原町田 1-2-3
アーベイン平本 403

TEL: 042-721-1601 FAX は廃止しました
(不在の時は留守番電話に伝言をお願いします)

HP: <http://www.jca.apc.org/sahel-no-mori/>

E-mail: sahel-no-mori@jca.apc.org